

海津市まちづくり委員会「第4回グリーン・ツーリズム検討分科会」会議録

開催年月日 平成20年3月14日(金)

開催場所 海津庁舎3階「第3会議室」

分科会委員定数 12名

開 会 午後2時

閉 会 午後4時

出席者 ○分科会委員

東海学院大学学長 杉山道雄

岐阜県農業振興課 課長補佐 川瀬昭

公募市民 伊藤啓二郎

農業委員会代表 橋本輝男

農事改良組合連合会代表 西脇幸雄

営農協議会代表 芳賀麒一郎

~~海津市商工会 鷲野勝憲~~

~~農業フォーラム21代表 山内徳男~~

農業セミナー代表 近藤修治

~~本曾三川ブルーベリーの里 伊藤辰博~~

海津市4Hクラブ 近藤栄希

海津市農林振興課主幹 青木彰

海津市商工観光課係長 大倉光好

海津市生涯学習課係長 森悦子

海津市企画政策課主任 毛利卓司

○事務局

企画政策課長 三木孝典

企画政策課主幹 服部尚美

会議次第 1. 開会

2. 協議

(1) 今後の課題と検討事項について

(2) 海津市におけるグリーン・ツーリズムの可能性について
グループ討議

(3) 視察研修について

4. 閉会

会議録（要約）

事務局	ただ今より、まちづくり委員会「第4回グリーン・ツーリズム分科会」を開催します。会長からご挨拶をお願いします。
分科会長	<あいさつ>
事務局	ありがとうございました。議事を進めていただく前にDVDを見ていただきたいと思います。
	<DVD観賞> グリーン・ツーリズムDVD 制作：まちむら機構
分科会長	それでは早速協議を進めていきたいと思います。協議事項について事務局より説明願います。
事務局	<資料に基づき説明> <グループ討議> 海津市の農業についての課題と解決案
1班発表	<ul style="list-style-type: none"> ●海津市において観光協会を立ち上げた。商業、農業、観光が関連して進めていくことが大切ではないか。 ●食の安全ということで、地産地消の推進をしてはどうか。 ●農産物はあるが、それを加工したものがなかったので加工品を作ってはどうか。 ●体験農業はあるが、点在しているので、ある程度集約する必要があるのではないか。また集約して体験農業をした後に、温泉、お千代保稲荷というようにルート設定をしたほうがよいのではないか。 ●海津市には広大な農地があるが、水田に関しては遊休農地がない、あるとすれば畑があるくらい。 ●体験農業を教えるようなリーダー、また会社の発想が必要ではないか。
2班発表	<ul style="list-style-type: none"> ●いまあるものを特産品として押し出してもなかなか認知されにくいので、加工することによって海津市ブランドにしてはどうか。 ●道の駅の直売所は盛況で、販売スペースの確保ができないことから新規の参加が難しい。出品したい人が商品を出せないということから、例えば軽トラックの荷台に商品載せて、荷台を販売スペースにしてしまう。そうすれば駐車場スペースだけ済む。 ●後継者不足については、遊休農地を利用した市民農園など行っても、農地自体の管理は何とかなると思うが後継者の育成には結びつかないと思う。
杉山委員	1班の発表で、観光協会を立上げ、商業、農業、観光が関連して、という意見がありました。グリーン・ツーリズムは、パートナーシップの形成だと思えます。今までは農業、工業、商業を別々にやってきましたが、それを観光協会の設立で1本につなげ

	<p>る、ということは1つの柱になると思います。</p> <p>2班の発表で海津ブランドと言う話が出てきました。例えば、漬物などの加工品を販売してはどうでしょうか。海津市の大根の棚干しの写真を見ますが、これは立派な風物詩になります。</p> <p>観光協会を設立するのであれば、目標を設定する。1年間で千代保稲荷に213万人が参拝にきているので、これを313万人を目標にする。そのために、千代保稲荷のアンケート結果でもあったように、駐車場、トイレの整備を行う。</p> <p>愛知県から62%が参拝に来ていて、50～60歳台がほとんどであるが、これをどう若年化するか。</p> <p>千代保稲荷神社の前はどこで、後はどこに行くかとありましたが、1日回流できるような計画を考える。ルート化する。それには春夏秋冬の海津の観光資源を使う。</p>
川瀬委員	<p>DVDの中でグリーン・ツーリズムを大きく分けると日帰り型と宿泊型の2つに分けられます。現状からすると海津市は日帰り型がいいのかと思います。そう考えたとき、以前、杉山先生がグリーン・ツーリズムは販売型→体験型→滞在型と言っておられました。販売というと、海津市は道の駅があり、それぞれ流行っているので、ここを核にするといいかと思います。体験ですが、観光農園がなければ、今あるものをどうやって都会の人に利用してもらうか。一度洗出しを行うとよいです。</p> <p>農業体験のほかにも自然の体験というものがあります。海津市は川がありますのでそれを利用して何かできないか。自然があれば生活・伝統文化があるので、その中でできることを洗い出してみる、また海津の伝統食を洗い出す。とにかく色々なものがあるので、これをみんなで洗出しを行うことが大事だと思います。そのうえで実際にグリーン・ツーリズムにつなげるとサービスになるので、人材や組織を考えていく必要が出てきます。今後は、資源整理、ルート設定、それを回す組織、そしてPRしていくことが必要であると思います。</p>
分科会長	<p>以上をもちまして第4回目の分科会を終了いたしたいと思います。</p>